

全国循環器撮影研究会だより No.22

発行所 全国循環器撮影研究会 〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

e-mail:zenjunken@yahoo.co.jp , <http://plaza.umin.ac.jp/~zen-jun/>

第 22 回全国循環器撮影研究会総会予告 学術研究発表会のお知らせ 「第 13 回被ばく低減セミナー」開催報告 2007 年 関西循環器撮影研究会特別講演会開催報告

平成 19 年度 全国循環器撮影研究会中間監査・常任理事会議事録

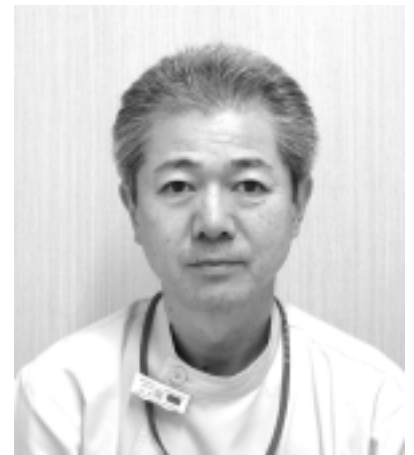


「第 12 回循環器被ばく低減セミナー」より

巻頭言

「ただ今、会誌 No.20...編集作業中」

東北循環器撮影研究会
みやぎ県南中核病院 佐藤州彦



今年の夏は、連日猛暑を報じるニュースが画面・紙面をにぎわし、最高気温の日本記録も 74 年振りで書き換えられました。今まで日本一を誇っていた(?) 山形県山形市(40.8)も、その座を埼玉県熊谷市と岐阜県多治見市(40.9)に明け渡すこととなりました。

9 月末になっても続いていた暑さも、10 月に入りやっと一段落して、そろそろ秋めいて来たかと思っていましたら、東北の山々では一気に紅葉の便りが届き始め、雪化粧した姿を現すのも、それ程先のことではないようです。(10 月中旬、宮城県仙台市にて)

さて私、今年度より全循研会誌の編集を担当ということになり、このところ連日 Microsoft Word を相手に悪戦苦闘している次第であります。今年度は著者各位のご協力と、事務局の大いなる尽力により、原稿の集まり具合は“まあまあ”といったところなのですが(これは私だけが思っていることなのかも知れませんが...) 如何せん、以前から相性の良くなかった Word を使った編集作業ということで、ストレスを溜め続けています。この Word の編集作業の中でも一番悩ませてくれるのが、図表の貼り付けです。“ここぞ”という場所に貼り付けて“ホッ”としていると、いつの間にか、勝手に別の場所へ移動している...直しては、また移動...この繰り返しで、四苦八苦の状態です。“文字列と一緒に移動しないよう、チェックボックスをはずしても”なかなか一筋縄ではいかない...どなたか、“うまい方法”をご存知でしたら、ぜひ伝授していただけないでしょうか...

ところで、全循研による被ばく線量低減推進施設認定に関しては、認定施設数も徐々に増えてきており、9 月現在で 6 施設を数えております。当然のことながら、自分の施設でも対応を考えなければならないところなのですが、忙しさにかまけて遅れているといった状況です。また、循環器撮影専門技師認定制度もあと少しの所まで来ているようです。私も含め、全循研の皆さん、ぜひ循環器撮影専門技師認定制度とともに、施設認定取得に向けて歩みを進めようではありませんか。



栗駒山秋景色(モノクロですみません)

第 22 回全国循環器撮影研究会総会予告 学術研究発表会のお知らせ

1) 第 22 回全国循環器撮影研究会・学術発表会について

- ・日 時：平成 20 年 4 月 5 日(土) 17:30~21:00
- ・場 所：横浜市開港記念会館 〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町 1-6 (TEL 045-201-0708)
- ・参加費：会 員 1000 円
非会員 2000 円
- ・実行委員長：安永国広(関西循環器撮影研究会)

2) タベの開催について

- ・日 時：平成 20 年 4 月 4 日(金)(18:00~20:00)
- ・場 所：横浜桜木町ワシントンホテルレストラン/ベイサイド
〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町 1 丁目 1-67 (TEL045-683-3111)
- ・参加費：会員 6000 円、非会員 8000 円
- ・実行委員長：田辺智晴(関西循環器撮影研究会)



第 13 回 循環器被ばく低減セミナー開催報告

主 催 : 全国循環器撮影研究会
 : 循環器画像技術研究会
 共 催 : 日本放射線技術学会 放射線防護分科会
 放射線計測分科会

日 時 : 平成 19 年 9 月 1 日 (土) 9:40 ~ 16:40
 会 場 : NTT 東日本 関東病院 4F 会議室

【 プログラム内容 】

9:40- 9:50	開会式		
9:50-10:10	被ばく線量低減推進施設認定について	昭和大学藤が丘病院	加藤京一
10:10-10:35	講義 1 放射線の人体への影響	千葉県がんセンター	今関雅晴
10:35-11:05	講義 2 X線装置による被ばく低減	昭和大学病院	大沢三和
11:10-11:40	講義 3 X線防護用具	NTT 東日本関東病院	福地達夫
11:40-12:10	講義 4 品質管理	横浜市立大学附属市民総合医療センター	石川栄二
12:10-12:40	講義 5 線量測定法	横浜市立大学附属市民総合医療センター	坂野智一
13:20-14:00	講義 6 FPD 関連	昭和大学横浜市北部病院	佐藤久弥
14:00-15:00	講演 - 放射線被ばくの臨床と病理 -	東京大学医学部附属病院 准教授・緩和ケア診療部 部長	中川恵一先生
15:00-15:30	講義 7 面積線量計の簡便な使用方法 (実習説明)	山梨大学病院	坂本 肇
15:30-16:30	測定実習 (面積線量計の簡便な校正方法)	NTT 東日本関東病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 山梨大学附属病院	塚本篤子 田島 修 坂本 肇
16:30 ~	終了式	修了証書授与	

第 13 回 循環器被ばく低減技術セミナー（東京）に参加して

NTT 東日本関東病院 早坂 淳一郎

今回の循環器被ばく低減技術セミナーでは色々な場所や地域から多くの参加者がいらっしゃって、被ばく低減はいろいろな施設でも注目されている事柄であることが分かりました。また、様々な施設の方が被ばく低減についての講義をされることにより、その講義の内容の事柄だけでなく、講師の方々の施設においての被ばく低減のために行っている手段などが分かったりし、被ばく低減の技術の向上にとっても役立っていると感じました。

実習形式の患者さんの皮膚への入射線量の簡便な測定法の講義では、実際に目の前で面積線量計の測定を見て、一個一個手順を追って説明を受け、線量の計算を順々に行ったことで、より分かりやすく、一層の理解が得られました。

また、東京大学病院の中川恵一先生のお話を聴いて、日本が被爆国であるが故に多くの患者さんが抱く放射線を用いた医療に対する抵抗感を払拭するため診療放射線技師の努力が必要不可欠であることや、これからの放射線を用いた医療のさらなる発展や促進の面から考えて、診療放射線技師の必要性はこれまで以上に上がってきていて、とても重要なポストだと改めて感じる事ができました。

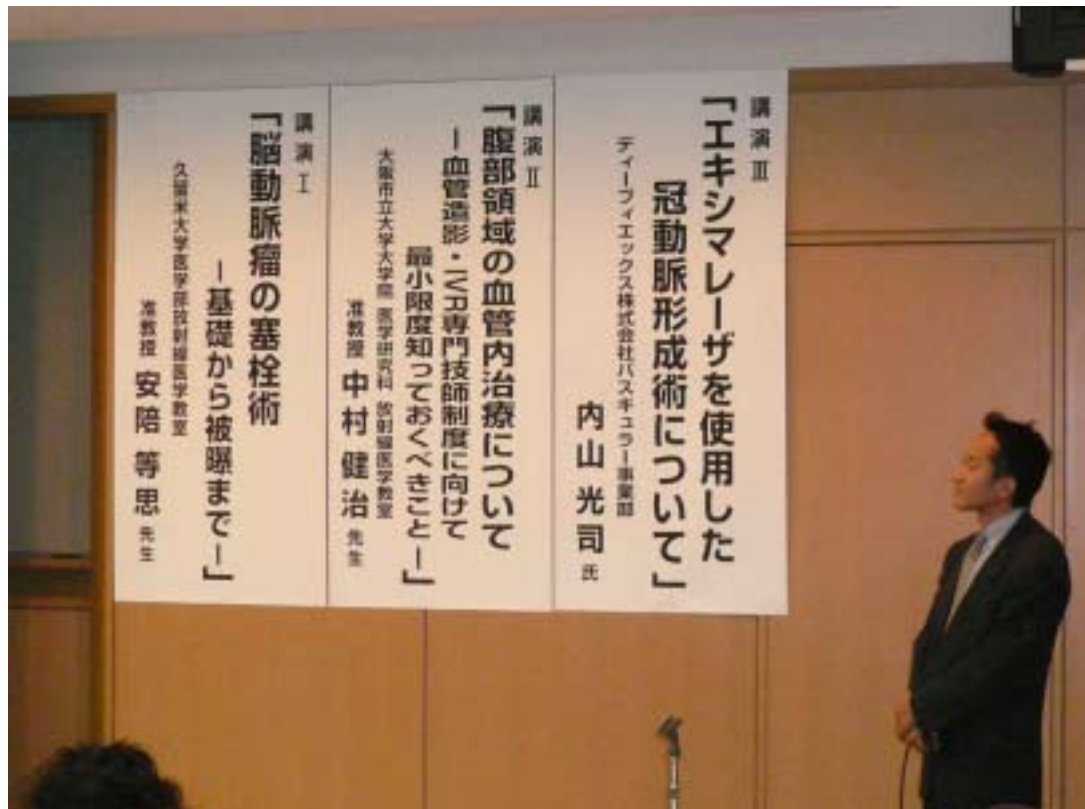
今回、循環器被ばく低減技術セミナーに参加して、これは自分の能力や知識を高めることだけでなく、他施設の方との交流などの役割も担っていると感じました。また、このような機会があればぜひ参加したいと思います。



2007年 関西循環器撮影研究会特別講演会開催報告

日 時： 平成 19 年 11 月 3 日（土） 13:00～17:00

会 場：大阪市立大学病院講堂



ご挨拶

大阪府立母子保健総合医療センターの田辺です。毎年関西循環器撮影研究会では 11 月のこの時期に特別講演会を開催しております。今年は、講師の推薦が遅れたため、会員への案内も遅くなりました。現在の医療現場での血管撮影は、MRI、MDCT に比べ研究会離れする若者もいます。そんな中、今回の 150 名を越える参加者は、全循研の学術大会より多い参加者です。不安だらけの開催でしたが、私たち幹事のにとって大きな励みになりました。ありがとうございました。

今、血管撮影を携わる技師に何が必要か、それは、医師・技師・看護師の三位一体のチーム医療へ参加するのはもちろんですが、そのチームは専門医・専門技師・専門看護師でなければならいということです。研究会離れしている若者たちに、一つレベルを上げたチーム医療の一員となることを望んでいます。

全循研会員の皆様の力なくして、これからの血管撮影の発展はありえません。各地で開催される研究会・勉強会に参加し、個人の能力を最大限活用できる職場を作っていくて下さい。

皆様のご活躍をお祈りします。

最後になりましたが参加者からのメールを記述させていただきます。

参加者の声



メール拝見させていただきました。

技師の仕事を時代の流れに乗っ取って確認、再構築していくというのは重要なことだと思います。

それを医師とともにやっていくというのは非常に重要なポイントだと思います。このような活動を企画し実際に行っていくのは非常にエネルギーが必要なことでしょう。がんばってください。

さて、頂いたメールですが、転送の形で配布させてもらってよろしいでしょうか。

ほとんど治療関係の知り合いしかありませんのでアンギオ担当者にダイレクトに送付することが出

来ませんが、横への配布に微力ながらお力添えさせてもらいたいと思います。

【メーカーの皆様からのメール】

私が現役であった頃、血管撮影ご担当の技師のみなさんと日夜、画質や装置改善に取り組んできた事を思い出します。

進化した循環器システムを担当しているのは若いサービスマンで、蓄積された経験も浅くそのようなDNAを伝えきれないでおります。

最先端医療現場の皆さんとの思いを一つにするすばらしい機会と感謝申し上げます。

一人でも多くのサービスマンに拝聴するよう伝えます。

さて、関西循環器撮影研究会特別講演会のご案内をいただき誠にありがとうございます。

先生の危惧される内容は、私どもメーカーによる日頃のセールス活動におけるトーク、プロモーション資料の影響が少なからず影響していることと思います。そうしたことが、もし技師の皆様様の業務を誤解させることになっているとすれば、それは由々しきことです。技師の先生方の本質的なニーズを解決できる糸口が見つけられれば私どもといたしましても、大変ありがたいことです。早速弊社のアンギオチーム、そして関西エリアの営業にも本会を案内させていただきます。



ご丁寧に、メール頂きまして有難うございます。

微力ではございますが、関西循環器研究会でお役に立てればと考えております。当日は、認定技師制度設立に向けての企画の内容とのことで、是非出席させて頂きたいと考えております。

今後とも、宜しく御願ひ致します。



いつも大変お世話になり誠にありがとうございます。メール本当にありがとうございました。是非とも参加させて頂きたくよろしくお願い致します。人数制限等々なければ弊社からIVRグループメンバー3～4名ほど参加したいと思いますが、可能でしょうか。よろしくお願い致します。

関西循環器撮影研究会特別講演会のご案内、どうもありがとうございました。非常に興味深い内容ですね。是非参加させていただきます。

メールありがとうございます。今回のプログラムは是非とも出席したいと思っておりました。顧客訪問先でもご案内させていただこうと思います。最近、小中規模の病院でTAEを行う施設にも、たまに立会いにいきます。血管撮影専用装置ではなく、アイランドタイプ・オーバーチューブのTV装置です。認定技師制度がアンギオ専用機のある施設の技師のためだけでなく血管造影に關与する全ての医師、技師のブラッシュアップにつながることを願ひます。ハードルを下げるということではなく、底上げをしていきたいということです。最近「立会い」に関してもいろいろと規制がかかってきており、現場でよい検査を行うためのアドバイスが難しくなっていくようです。トレーニングの仕方をよく考えなければなあと思う今日この頃です。

11月3日の関西循環器研究会には参加させていただきたく予定にしています。関循研の内容の新鮮な企画には勉強させられる事がいっぱい非常にありがたいです。技師認定精度は血管治療において非常に大事なシステムと考えています。特に、現在、弊社でもより低線量にて治療に即した透視・撮影をご提案させていただいてます。(どこのメーカーもスタンスは変わらないと思いますが・・・)

ただ、より細いステントの出現と、DRからの要望にて施設において必要以上の高画質を求められる施設・メーカーがあるようです。私は、この風潮には疑問があります。ただ、今回の技師認定制度はこのようなあり方を変えていただける精度になればと思います。血管治療の被曝の部分は今後もメーカーの努力も必要ですが、各施設のご理解が必要と思っています。

今後、この認定制度が前向きに進んでいかれる事を心より希望させていただきます。

当日、お会い出来ること楽しみにしています。

平成19年度 全国循環器撮影研究会中間監査・常任理事会議事録

1. 常任理事会日時：平成 19 年 10 月 27 日（土）15:00～19:00
2. 場 所：名古屋会議室 NFC 名古屋駅前 第 1 会議室
愛知県名古屋市中村区名駅三丁目 23 番 13 号 NFC 名駅ビル 8 階
3. 常任理事会出席者
会 長：安永 国広
常任理事：吉村秀太郎（学 術 委 員 長）
若松 修 （総会企画委員長）
佐藤 州彦（編 集 委 員 長）
事務局：田辺 智晴（事 務 局 長）
大角 真司（事 務 局 員）
（欠席）横山 博典（経 理 局 長）：血管撮影・インターベンション専門技師委員会参加

会長挨拶

議事

2. 平成 18 年度 会務中間報告
 - 1) 活動報告（総括）・・・【資料 1】
 - 2) 庶務報告・・・【資料 2】
 - 3) 会員動向報告・・・【資料 3】
 - 4) 情報部報告・・・【資料 4】
 - 5) 編集部報告・・・【資料 5】
 - 6) テキスト改訂委員会報告・・・【資料 6】
 - 7) 会務運営・その他の議題・・・【資料 7】

議事

1. 第 22 回全国循環器撮影研究会総会
 - 1) 第 22 回全国循環器撮影研究会・学術発表会について
 - ・日 時：平成 20 年 4 月 5 日（土）17:30～21:00
 - ・場 所：横浜市開港記念会館 〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町 1-6
 - ・参加費：会 員 1000 円
非会員 2000 円
 - ・実行委員長：安永国広（関西循環器撮影研究会）
 - 2) タベの開催について
 - ・日 時：平成 20 年 4 月 4 日（金）（18:00～20:00）

- ・場 所：横浜桜木町ワシントンホテルレストラン / ベイサイド
〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町 1 丁目 1-67
- ・参加予定者人数：80 名
- ・参加費：会員 6000 円、非会員 8000 円
当日全循研の新入会手続き可能とする。(担当：相良健司)
年会費の入金を取り扱う。(担当：相良健司)
- ・実行委員長：田辺智晴(関西循環器撮影研究会)
- ・進行司会：大角真司(中四国循環器画像技術研究会)
(循環器画像技術研究会)

3) 総会

- ・常任理事会・理事会の審議結果をふまえて、議案を提出

3. 監査・理事会について

1) 監査

- ・日 時：平成 20 年 3 月 2 日(日)
- ・場 所：広島市内
- ・監査委員：水谷 宏 景山貴洋
事務局員：田辺智晴 横山博典 大角真司

2) 理事会

- ・日 時：平成 20 年 3 月 15 日(土) 10:00 ~ 15:00
- ・場 所：NTT 東日本関東病院

3) 役員選出：平成 20 年度

- ・会長候補：若松 修
- ・事務局長候補：循環器画像技術研究会
- ・監事候補：景山貴洋 北陸アンギオ研究会

4. 専門委員会報告

1) 専門委員会報告

- (1) 学 術 委 員 会 (吉村秀太郎 常任理事)
- (2) 編 集 委 員 会 (佐藤州彦 常任理事)
- (3) 総会企画委員会(若松 修 常任理事)

2) 会務運営

- (1) 平成 19 年度会務中間報告
- (2) 第 22 回学術研究発表会・懇親会について
- (3) 監査・理事会・総会について
- (4) 課題研究について
- (5) 被ばく低減技術セミナーについて
- (6) 専門委員会報告と今後の会務運営について
- (7) 提案議題

(8)その他
閉会

【資料 1】

1. 第 20 回学術大会開催 (H18.4.14)

2. 講師派遣

	日時	派遣学会・研究会	講師名	講師所属
1	平成 19 年 5 月 19 日	関西循環器撮影研究会	坂本 肇	循 研
2	平成 19 年 6 月 8 日	日本放射線技師会総会	田辺智晴 西岡宏之	関循研 関循研
3	平成 19 年 6 月 8 日	新潟アンギオ研究会	市田隆雄	関循研
4	平成 19 年 6 月 23 日	東海循環器画像研究会	市田隆雄 加藤京一	関循研 循 研

3. 被ばく低減セミナー関係

. 第 13 回循環器被ばく低減セミナー開催 (H19.9.1)

場 所：NTT 東日本関東病院

受講者数：29 名

. 第 14 回循環器被ばく低減セミナー開催 (H19.9.30)

場 所：金沢大学医学部附属病院 1F 合同カンファレンスルーム他

受講者数：50 名

5. 施設認定関係

	施設名	所属推進母体	申請年月日
1	富士市立中央病院	循環器画像技術研究会	2007 年 5 月 1 日
2	青森労災病院	東北循環器撮影研究会	2007 年 5 月 18 日
3	昭和大学藤が丘病院	循環器画像技術研究会	2007 年 5 月 30 日
4	秋田県成人病センター	東北循環器撮影研究会	2007 年 8 月 1 日
5	兵庫県立尼崎病院	関西循環器撮影研究会	2007 年 8 月 8 日
6	昭和大学横浜市北部病院	循環器画像技術研究会	2007 年 9 月 2 日
7	NTT 東日本関東病院	循環器画像技術研究会	2007 年 9 月 15 日
8	横浜市立大学附属総合医療センター	循環器画像技術研究会	2007 年 9 月 20 日

今後の予定

- ・ 平成 19 年 12 月 1 日 第 15 回被ばく低減セミナー開講予定
- ・ だより No.22 を平成 19 年 11 月発送
- ・ 全国循環器撮影研究会雑誌第 20 巻を平成 19 年 12 月発送
- ・ だより No.23 を平成 19 年 2 月発送

【資料2】

1. 全国循環器撮影研究会役員委嘱状送付
2. 全国循環器撮影研究会会誌執筆依頼状送付
3. 被ばく低減推進施設認定書送付
4. 被ばく低減セミナー修了書送付
5. 講師派遣依頼状送付
6. 広告依頼趣意書・広告費請求書・広告収支報告書送付

【資料3】

推進母体 \ 内訳	(A)	(B)				(G)	(H)	(I)	(J)
		(C)	(D)	(E)	(F)				
北海道アンギオ研究会	14	12			2	12	8	85.7	66.7
東北循環器撮影研究会	69	60		1	10	61	42	87.0	70.0
新潟アンギオ画像研究会	45	43			2	43	16	95.6	37.2
循環器 I.S 研究会	14	4			10	4	1	28.6	25.0
循環器画像技術研究会	75	67			8	68	49	89.3	73.1
東海循環器画像技術研究会	18	17	1		2	16	13	94.4	76.5
北陸アンギオ研究会	11	13	2			11	12	118.2	92.3
関西循環器撮影研究会	57	61	6		2	55	51	107.0	83.6
中四国循環器画像技術研究会	10	12	4		2	8	10	120.0	83.3
九州循環器撮影研究会	28	28	1	1	2	27	19	100.0	67.9
メーカー	25	22	1	1	5	23	13	88.0	59.1
無所属及び不明	59	68	15		6	54	50	115.3	73.5
合計	425	407	30	3	51	382	284	95.8	69.8

(A) 2006年度会員総数 (B) 2007年度会員数 ()内は内訳 (C) 会員総数 (D) 新入会
 (E) 再入会 (F) 退会 (G) 2006年度会費納入者数 (H) 2007年度会費納入者数
 (I) 会員増減前年比(%) (J) 会費納入率(%)

【資料4】

情報局の活動内容

2007年4月9日 号外のメールマガジンを発送

2007年4月11日 推進母体 関西循環器撮影研究会 第90回セミナーをホームページに掲載

2007年4月19日 91号のメールマガジンを発送

2007年4月20日 第21回総会・学術大会・全循研の夕べの開催報告をホームページに掲載

2007年4月30日 被ばく線量低減推進施設認定の申請に関する情報をホームページに掲載

2007年5月5日 推進母体 循環器画像技術研究会 第235回定例会をホームページに掲載

推進母体 東北循環器撮影研究会 第46回定例会をホームページに掲載
 推進母体 東海循環器画像研究会 第27回定例会、第13回総会をホームページに掲載

載

推進母体 関西循環器撮影研究会 サマーセミナーをホームページに掲載
 第8回千葉アンギオ技術研究会開催をホームページに掲載

2007年5月8日 92号のメールマガジンを発送

2007年5月21日 平成19年度全国循環器撮影研究会会長挨拶をホームページに掲載

2007年5月27日 推進母体 循環器画像技術研究会 第236回定例会をホームページに掲載

2007年6月3日 推進母体 新潟アンギオ画像研究会 第57回定例会をホームページに掲載

2007年6月5日 93号のメールマガジンを発送

2007年7月1日 第13回 循環器被ばく低減セミナー開催をホームページに掲載

第14回 循環器被ばく低減セミナー開催をホームページに掲載

第15回 循環器被ばく低減セミナー開催をホームページに掲載

推進母体 循環器画像技術研究会 第237回定例会をホームページに掲載

推進母体 循環器画像技術研究会 サマーフレッシュセミナーをホームページに掲載

第8回近畿トランスラディアル研究会 開催をホームページに掲載

2007年7月3日 94号のメールマガジンを発送

2007年7月30日 全循研だより No.21 を発行情報をホームページに掲載

2007年8月7日 95号のメールマガジンを発送

95号よりメールマガジンの配送方式をメールリングリスト形式へ変更

照射野重複シミュレーション用ソフト「Area Stamper for PCI」をホームページに掲載

スライド「血管造影室に必要な放射線測定」をホームページに掲載

2007年8月20日 血管模型セミナーをホームページに掲載

2007年8月31日 認定施設をホームページに掲載

2007年9月5日 ホームページのサイドフレーム内容を更新

推進母体 循環器画像技術研究会 第238回定例会をホームページに掲載

推進母体 関西循環器撮影研究会 第91回定例会をホームページに掲載

推進母体 東海循環器画像研究会・サマーセミナーをホームページに掲載

第25回「医療放射線の安全利用研究会」フォーラムをホームページに掲載

2007年9月11日 第13回被ばく低減セミナーの報告を掲載

2007年9月12日 96号のメールマガジンを発送

2007年9月14日 施設認定に関するQ&Aと申請書類の見本をホームページに掲載

2007年10月1日 第15回被ばく低減セミナーのプログラムをホームページに掲載

推進母体 循環器画像技術研究会 第239回定例会をホームページに掲載

被ばく防止ガイドラインをホームページに掲載

2007年10月2日 推進母体 新潟アンギオ画像研究会 第58回定例会をホームページに掲載

2007年10月4日 推進母体 関西循環器撮影研究会 平成19年度 特別講演会をホームページに掲載

2007年10月5日 被ばく線量低減推進施設の取得施設を更新

97号のメールマガジンを発送

【資料5】

個人情報に関する資料のため、会議でのみ提示

【資料6】

テキスト改訂委員会活動報告

報告者：テキスト改訂委員会.委員長 横田 豊

全循研.循環器被ばく低減技術セミナーテキスト改訂委員会

平成19年度テキスト改訂委員

横田 豊	滋賀医科大学附属病院
加藤 京一	昭和大学藤が丘病院
中田 充	東北大学医学部附属病院
才田 壽一	奈良医科大学附属病院
相良 健司	大阪府立泉州救命救急センター
佐野 敏也	国立病院機構.大阪医療センター

以上6名

- 1.平成18年度版テキストの検定・・・平成18年12月20日～平成19年6月30日
- 2.校正作業・・・・・・・・・・・・・・・・平成19年6月30日～平成19年7月30日
- 3.安永会長へ2007年版テキスト巻頭言「発刊にあたって」
 ---被ばく低減技術ガイドラインの実践と啓蒙を---を依頼 平成19年5月20日
- 4.テキスト2007年改訂版印刷製本発注・・・・・・平成19年8月10日
- 5.テキスト2007年改訂版製本を事務局、
 およびセミナー開催研究会へ発送・・・・・・・・平成19年8月25日
 - 1.循環器画像研究会 東京（開催）
 - 2.北陸アンギオ研究会 富山（開催）
 - 3.全循研事務局 大阪（保管）

テキスト改訂作業及び打ち合わせは主に、文書・メール送信・にて連絡を行った。

2007年版テキストの主な修正改訂

「1.人体の放射線～」

「1-5.自然放射線源からの平均被ばく線量」の表を(UNSCEAR2000改訂)に改訂。(P-5)

「2.X線装置による～」

「2-1.X線管」の固有ろ過のJIS規格（総ろ過についても）明確に表示した。

この2-1.X線管では、（改訂前-JIS規格は総ろ過2.5mmAl～改訂後固有ろ過0.5mmAl）

（図中.）。（P-25）

「2-12.パルス透視での注意点」で、ノートに「IVRと被ばく低減に対する視点」として、線量低減方法の手段のコメントを記入。（P-37）

（頭部IVRについて、は、改訂前にも記載があるが、委員の申し出により、カテーテル
 アブレー

ションについてを追加。

ページ順の入れ替えを行った。(伴って、プレゼン用スライドも同様に入れ替えている)

「2-3」「2-5」、「2-4」「2-6」、「2-5」「2-4」、「2-6」「2-3」、「2-15」「2-16」、
「2-16」「2-15」、

その他に、表の罫線など、数箇所見やすく訂正した。

「4.X線防護用具」

「2」.防護衝立」の図中に、左画像を改訂した。(P-71)(今回、印刷ミスで改訂されず)

「5」-1.防護エプロン着用なしで～」を加筆した。(P-84)

「5」-3.防護効果(腹部血管撮影)」を加筆した。(P-86)

2006年版テキストのP83、4)顔面用放射線防護用具(参考/奈良医大)を、全面削除した。

その他数箇所にタイトルの少しの変更あり。(改訂に大差なし)

「5.品質管理」

「5-7.医療法に基づく管理のあり方」の図およびテキスト解説に、医療法及び医療補遺施行規則(平成19年3月30日 厚生労働省医務局)を追補稿した。

後半部分のページの順番を入れ替えた。

改訂前 = ~「5-16.始業点検」~「5-17.定期点検」~「5-18.まとめ」~

「5-19.定期点検項目の一例」~「5-20.毎日(始業・終業時)の点検」を

改訂後 = ~「5-16.始業点検」~「5-17 毎日(始業・終業時)の点検」~

「5-18.定期点検」~「5-19.定期点検項目の一例」~「5-20.まとめ」

に改訂した。その他、全般に文字間隔不適部分の修正等を行った。

2007年版循環器被ばく低減技術セミナーテキスト費用支出

支 出	適 用
¥3,990	テキスト2007年版(委員等資料)・CD-R等発送料
¥630	テキスト版下製作(プリント用紙)
¥8,460	テキスト版下製作(インクカートリッジ)
¥360,000	2007年版テキスト製本代
¥2,730	2007年版テキスト・CD-R等を印刷所~発送料
¥375,810	支出合計

【資料7】

1. 第22回学術研究発表会・懇親会について
2. 会誌について
3. 被ばく低減技術セミナーについて
4. 平成20年度役員選出について
5. 総会・学術大会プログラムについて

議題

1. 第22回学術研究発表会・懇親会について

1) 懇親会の会費について提案する。

- ・ 昨年の懇親会会費徴収時に、工業会の会員は6000円にするべきではないかの意見が出た。

2) 学術大会について。

- ・ 実行委員長：安永国広（関西循環器撮影研究会）
- ・ 会場設営実行委員：各理事
- ・ 集合時間：15時
- ・ 受付設営実行委員：関西循環器撮影研究会3名。循環器画像技術研究会3名。
- ・ 集合時間：16時

2. 会誌について

学術文献については例年通りだが、各推進母体からの以下の原稿について今後の募集について。

- ・ 外国文献：循環器画像技術研究会
- ・ 活動報告：関西循環器撮影研究会
- ・ 施設紹介2編
- ・ 各推進母体からの論文2編（関西・東海）

3. 循環器被ばく低減技術セミナーについて

1) 平成20年度開催予定について

第16回開催予定：中四国循環器撮影技術研究会（夏）

第17回開催予定：循環器画像研究会（9月6日）

第18回開催予定：

3) 本年度のテキストを活用し 4)の追加原稿は別冊で対応する。

4) 内容の改定

- ・ QC.QAは原稿として古いので次回編集では削除。
- ・ シネフィルムの項目は削除。
- ・ FPDの導入についての項目を追加する。
- ・ 症例を集める
- ・ JISの整合性について。

4. 平成20年度役員選出

- ・ 会長候補：若松 修
- ・ 事務局長候補：循環器画像技術研究会
- ・ 監事候補：北陸アンギオ研究会 景山貴洋

5. 全国循環器撮影研究会・学術大会のプログラムについて。

大会テーマ：

- ・ 実行委員長：安永国広
- ・ 実行委員：各推進母体から若干名の参加を要請する。
- ・ 集合時間：15:00
- ・ 日時：平成20年4月5日(土) 17:30～21:00
- ・ 場所：横浜市開港記念会館 〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町1-6

17:30 ~ 18:00	総会	
18:00 ~ 19:00	教育講演	「各モダリティをどのように使い分け、どのよう に診断していくか」
19:00 ~ 19:30	課題研究	循環器画像研究会
19:30 ~ 19:40	休憩	
19:40 ~ 20:40	ワークショップ	被ばく線量の正しい測定法 透視撮影 単純撮影 CT 検査 術者
20:40 ~ 21:00	質疑討論	

全国循環器撮影研究会だより (No22)

発行日：2007年11月15日

発行責任者：安永国広

事務局：大阪府立母子保健総合医療センター 放射線科内
全国循環器撮影研究会 事務局

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

編集：福西康修

印刷所：石川特殊特急製本株式会社

〒550-0004 大阪市西区靱本町1丁目5番15号